

西宮市立郷土資料館ニュース 第41号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話 0798-33-1298

西宮市内の地蔵の追加調査報告（上）

細木ひとみ（当館囑託）

はじめに

西宮歴史調査団の地蔵調査班は、平成18年（2006）4月から平成23年（2011）3月まで、市内に祀（まつ）られている地蔵の場所や由来などを調査した。この時に調査対象とした地蔵は、路傍に祀られているもの（歩きながら確認できるもの）に限り、寺社や人家の中などで祀られているものは除いた。ただし、寺社や個人宅の敷地内にあるものでも道路に向いている地蔵や、見た目で判断できにくいものでも地域の方が「地蔵さん」と呼んでいるものは含めた。そして、この地蔵調査班の調査成果は、西宮歴史調査団・調査報告書第2集として平成25年（2013）3月に『西宮の地蔵』（A5判、218頁、郷土資料館窓口にて1冊500円で販売中）を刊行し、調査終了をもって地蔵調査班は解散した。

しかし、刊行までに調査できなかった地蔵や刊行後に情報提供のあった地蔵もあり、地蔵調査班であった栗野光一氏と高橋博己氏にご協力いただき、追加調査を行った。本稿では、平成25年（2013）4月から平成26年（2014）9月までに調査した地蔵のうち11例を報告する。

1. 地蔵調査の概要

追加調査は主に細木が行い、地蔵調査班であった栗野光一氏と高橋博己氏にも協力を依頼した。今回の調査では、これまで調査対象とした地蔵に加え、寺社境内に祀られていても、元は路傍で祀られていたことがわかる地蔵や地蔵盆を行っている地蔵も調査を行った。そのため、刊行後に発見したうちの5ヶ所の地蔵の他に、寺院境内に祀られている2ヶ所の地蔵も調査を行ったのである。地蔵調査成果の表記の凡例は次の通りである。

●地蔵番号（名称、呼称）

(i)所在地／(ii)地蔵の形状（判断がしにくいものには（カ）と記す）／(iii)聞き取りなど特記事項（聞き取りの内容は伝承者が話したままを掲載している）

地蔵番号とは市内の町ごとの地蔵につけたものであり、町名の後にある [] には発見した順に番号を入れている。地蔵の形状の詳細は、西宮歴史調査団・調査報告書第2集『西宮の地蔵』（第1章・第2節「調査の経過と概要」）を参照していただきたい。本稿で報告する地蔵の位置は、地図1及び地図2（5、6頁）に表した。

2. 未調査の地蔵

●西方寺の地蔵

(i)鳴尾町3丁目4-14 西方寺境内

(ii)祠内に26体あり(写真1)。中央の奥に祀られている地蔵は、a丸彫・頭光ありb立像c右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。その他の地蔵の形状は未調査。

(iii)地蔵盆は8月23日に行う。平成25年8月23日には、18時30分ごろから西方寺住職による読経と吉水講のご詠歌あり(写真2・3)。

〈調査者：細木〉

●等覚寺の地蔵（北向き地蔵尊、子育て地蔵尊）

(i)小松町1丁目1-14 等覚寺境内

(ii)祠内に1体あり(写真4)。a丸彫b立像c右手に錫杖(別材)、左手に宝珠を持つ。

地蔵の台石の正面には「光譽順照信士／法界／永譽妙壽信女」、右面には「順譽教春信士／円譽妙紅信女／光譽教本信士／本譽妙心信女／載譽了順

(カ)信士／載譽妙順信女／法譽女性信士／鏡譽円壽信女」、左面には「三譽浄心信士／宝譽栄樹信女／願譽浄誓

(カ)信士／大譽壽度(カ)信尼／須(カ)譽浄教(カ)信士／嘆譽貞讚信女

／心譽清安信女／随譽了順信士」、背面「奉永代毎月縁日燈／施主／覚譽了順信士／浄譽理(カ)清信女／享保三戊戌七月廿三日／大坂播磨屋半兵衛」と刻まれている。

(iii)等覚寺住職と奥さまにお話を伺う〈平成25年8月、平成26年5月調査〉。



写真1 西方寺の地蔵堂



写真2 西方寺の住職による読経



写真3 西方寺の吉水講によるご詠歌

戦災の時も震災の時も無事だった。いつ建立したのか、はっきりわからないが古いお地蔵さん。地蔵盆には、8月24日の13時から住職がお経をあげる（写真5、平成25年8月24日撮影）。その後、10年くらい前までは、念仏講（近所の有志）の方々がご詠歌を練習していたので、地蔵盆にご詠歌を奉納していた。地蔵さんへのお供えは、お供えしてくれた家々にお下がりとして均等に配っている。お参りに来てくれた子供さんには、寺からお下がりとしてお菓子を渡す。

〈調査者：粟野、細木〉



写真4 等覚寺の地蔵



写真5 等覚寺の住職による読経

●東鳴尾町 [2]

(i)東鳴尾町2丁目6-6

(ii)祠内に2体あり（写真6・7）。右の①は「一願地蔵尊」で、a丸彫b坐像c両手で宝珠を持つ。左の②は「延命地蔵尊」で、a丸彫b立像c右手に錫杖（別材）、左手に宝珠を持つ。

(iii)お世話をされている濱埜さん（調査時76歳）よりお話を伺う〈平成26年2月調査〉。

子供の頃には「町の守り地蔵さん」と言われ、東鳴尾町2丁目4番地内の武庫川堤防にむかう筋に祀られていた。地蔵を世話する人が亡くなられた後、放置されていたので、（濱埜さんの）母親が現在のところに移して祀った。母親が健在の頃は、提灯を飾るなどして近所の人たちを含めて盛大に地蔵盆を行っていた。現在は家のみで地蔵盆を行っている。

〈調査者：高橋〉

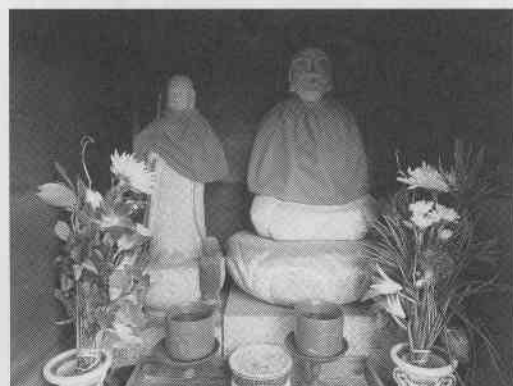


写真6 東鳴尾町 [2] の地蔵



写真7 東鳴尾町 [2] の祠

●笠屋町 [2] (庄衛地蔵)

(i)笠屋町33-12

(ii)祠内に1体あり(写真8)。a舟形光背(カ)・浮彫b坐像(カ)c不明(印を結ぶカ)。

(iii)お世話をされている柏木さん(調査時64歳)よりお話を伺う<平成26年2月調査>。

祖母のお弟子さんが、滋賀県で一部が地中に埋まっていた地蔵を見つけて、ここへ持って来られた。私が聞いている話では、この地蔵さんは安永元年6月14日に亡くなられた丸井庄衛門という武士で、奥さんと子供がいた。32歳になる次男の誕生日である6月14日に、熊笹にお餅3個を付けて供えるようにといわれており、それを守り続けている。地蔵の名前は「庄衛地蔵」で、周囲の人を守るといわれている。地蔵盆には何も行っていない。

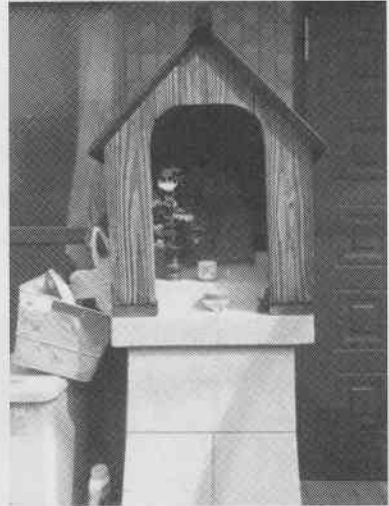


写真8 笠屋町 [2] の地蔵

<調査者：高橋>

●上鳴尾町 [1]

(i)上鳴尾町11-8

(ii)祠内に1体あり(写真9)。a舟形光背・浮彫b立像c両手で宝珠を持つ。

(iii)お世話をされている橘さん(調査時80歳代)よりお話を伺う<平成26年4月調査>。

母親の知人(伊藤さんという男性)に頼まれて、この地に地蔵を祀ったのが昭和24、5年ごろの話。伊藤さんのお子さんの具合が悪く、永い間医者に通っておられたが良くなりました。そのお礼にと、子供を見守る地蔵さんを持って来られ、ここに地蔵さんを建立させて欲しいと、母親に頼んだ。母親は「家にも子供が居るからと」その申し出を承諾した。伊藤さんは、この地蔵さんを知り合いの人に彫ってもらったそうで、この地蔵さんだけでなく大阪などの方々にも地蔵さんを建立された。度々お参りに来られていたが、ここ数年姿を見ていない。私自身も病氣しており、花の水も変えていない。



写真9 上鳴尾町 [1] の地蔵

<調査者：高橋>

●上鳴尾町 [2]

(i)上鳴尾町15-8

(ii)祠内に1体あり(写真10)。a自然石(カ)・浮彫b坐像(カ)c不明(印を結ぶカ)。

(iii)お世話をされている村上さん（調査時82歳）よりお話を伺う〈平成26年4月調査〉。

（村上さんが）生まれる以前に親が灘の鰯卵（ふらん）器の機械製造事業を営んでいた。現在住居となっている場所にその工場を建設したときに、畑の地中から石が出てきたと聞いている。母親がその石を祀ってきた。兄（長男、一昨年96歳で他界）が健在のときは、提灯を飾るなどして地蔵盆を行っていたが、ここ20年ぐらいはしていない。



写真10 上鳴尾町 [2] の地蔵

〈調査者：高橋〉

●津門西口町 [2]

(i)津門西口町

(ii)祠なし。1体あり（写真11、平成26年8月23日撮影）。a自然石（カ）・浮彫b坐像（カ）c不明（印を結ぶカ）。

(iii)世話役からお話を伺った方から情報提供いただきました（平成22年9月4日に聞き取りした話である）。

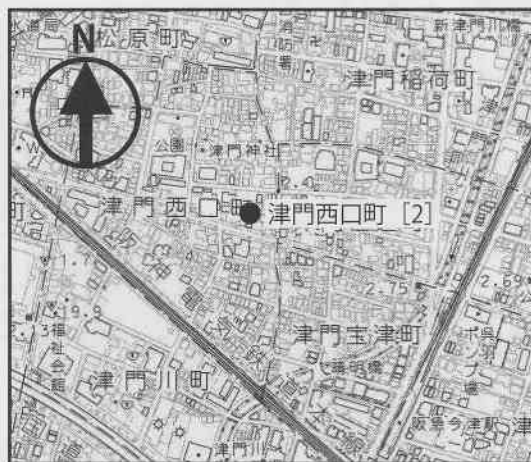
昔この地には念立寺というお寺があった。住職の素行があまりにも悪いので、檀家の人たちが相談の上で寺を取りつぶし、跡地に長屋を建てた。ある時、住人の誰かが津門川からお地蔵さんを拾ってきたので、ここに祀って、長屋の人たちで世話をするようになった。やがて、長屋は現在のような一戸建ての住宅に変わったが、引き続き近隣の有志でお祀りをしている。

地蔵盆は毎年8月23日と24日で、夜には提灯を点灯している。

〈調査者：細木〉



写真11 津門西口町 [2] の地蔵



地図1 今津地区の地蔵



地図2 鳴尾地区の地蔵

3. 『西宮の地蔵』に掲載した地蔵の追加調査

次に、『西宮の地蔵』に掲載した地蔵のうち、追加調査を行った3ヶ所の地蔵と、掲載後に変化があった1ヶ所の地蔵について報告する。

●浜脇町 [1] (『西宮の地蔵』27頁)

(iii)お世話をされていた今村さんよりお話を伺う<平成25年7月調査>。

浜脇の地蔵さんを「一本松地蔵」と呼んでいた(田岡香逸著『西宮地名考』参照のこと)。クリーニング屋をしていた竹中さん(竹中嘉一郎氏)の店先に地蔵さんが祀られており、竹中さんが管理していた。この時には、隣保で地蔵さんをお世話していて、私が代表者をしており、妻や隣保の有志2、3人がお花とかを替えていた。毎月1日にはお花を替えていた。今は全く関係しておらず、竹中さんの店もないので、誰がお世話をしているかはわからない。

地蔵盆は、8月23日に行った。8月23日の夕方に、一心講が本町の合田さんの家の地蔵で護摩を焚いたあとに、護摩焚きの道具を持って、装束を改めてととのえ、行列を組んで浜脇町の地蔵さんに移動したと思う。木とかが植えてなかったので歩道が今より広く、ゴザを敷いて、壇を組んで護摩を焚いていた。

●羽衣町 [1] (『西宮の地蔵』72頁)

(iii)お世話をされている一人の仲村百合子さん(昭和5年生)よりお話を伺う<平成25年8月調査>。

元は、左横にある「慈悲塔」が祠の中に祀られていた。夙川や川沿いに落ちていた地蔵さんを拾い集めて埋め、その上に慈悲塔を祀ったと聞いた。阪神淡路大震災で慈悲塔がこけて、危ないからと言って祠から出してもらい、慈悲塔を外で祀り、地蔵さんを新しく作って祠の中に祀った。この時に、慈悲塔の下を掘ってはいないため、本当に地蔵さんが埋まっているのか、今どうなっているかはわからない。

私がここに来たのが、グリーントウンが出来たときで(約50年前)、慈悲塔はグリーントウンができる前にあった市場の方々が祀っていた。昔から「延命地蔵」と言った。前にも延命地蔵と書かれた看板があったが、汚くなったので作りかえた。祠内の地蔵さんの提灯は、提灯を掛ける場所が空いたら掛ける。地蔵盆の時には、昔の商店街の方の名前がのった提灯を吊る。子供さんの提灯はないが、連絡するところがわからなくて言われたいのだと思う。地蔵さんの右側の3体の石は、夙川にあったものではないかと思う。それとも、(地蔵さんを)たくさ



写真12 海清寺の方による読経



写真13 子供たちにお菓子を渡す

ん埋めているので、寂しいからと3体つくったのか。昔はこの3体の上に屋根がなかったが、屋根をつけてろうそくをたてたり出来るようにし、前掛けをした。

地蔵盆は、8月23日か24日で、私が世話をするようになった震災後から海清寺さんに来てもらっている(写真12、平成26年8月23日撮影)。海清寺さんには、新しい地蔵さんの性根(魂)も入れてもらった。19時からお経をあげてもらうが、その前の17時30分か18時くらいからテープに合わせて西国三十三所のご詠歌をあげる。昔はあげる人もたくさんいたが、今は有志で5、6人しかいない。海清寺さんのお経が終わった後に、子供さんにおさがりを渡す(写真13、平成26年8月23日撮影)。(地蔵盆のお知らせ)貼り紙をしているので、100個くらい用意する。準備などのお手伝いは有志です。

(以下次号)

●『西宮の地蔵』に誤りが2ヶ所ありました。記してお詫びを申し上げます。

頁	誤	正
20	常盤町 [1]	常磐町 [1]
199	生瀬町2丁目2-24	生瀬町2丁目20-24

寄贈資料一覧 (平成26年3月～平成27年3月、敬称略)

広告(チラシ) 11点・大阪毎日新聞 明治三十二年二月二十日・包装紙 依田電気店・瓦木在郷軍人会退役記念盃(陶製)・退役記念盃(陶製)2点・近衛歩兵第一連隊除隊記念盃(木製)・輜四転営並第五九回創立記念盃(木製)・帝国在郷軍人会盃(木製)・包装袋(生蠟燭 4点・高野豆腐・薄雲・煎餅・金米糖・御菓子 3点・氷砂糖 3点・黒砂糖・三盆白砂糖 8点・白砂糖 5点)・包装紙・商標札19点(岡本紀士生)・酒造用ザル2点(向井理三良)・アメリカ博覧会パンフレット(西尾嘉美)・目録・着物(白無垢)・帯3点・帯揚げ・帯締め・訪問着・留め袖・羽織・喪服一式・道行きコート・筥迫2点・櫛・花飾り一式・末広・角かくし御張はし・かんざし・角盆2点・袱紗・風呂敷2点・筆入れ・羽子板・衣桁2点・宣徳火鉢・鯨尺2点・梅干し壺・金ダライ・コンテナ(三好博子)

ご寄贈ありがとうございました。

目次 CONTENTS

西宮市内の地蔵の追加調査報告(細木ひとみ) …1

寄贈資料一覧 …8

西宮市立郷土資料館ニュース第41号 平成27年(2015)3月31日